

漢詩の魅力を生かす現代語訳を創ろう

～作品を解釈し、言葉を吟味して現代語訳する活動を通して～

山梨大学教育学部附属中学校

授業者 那須 正和

【キーワード】 「漢詩の魅力」 「言葉の吟味」 「現代語訳」 「必要な自己調整」
「学びの計画書」 「ロイロノート」 「Fig jam」 「Google Workspace」

【授業の概要】

漢文には様々な解釈ができるものがある。私達が漢詩を訳すときには漢詩の世界観や時代背景、作品に描かれた世界観や表現を踏まえて日本語に置き換えていく。漢詩について考えていくときには原詩をどのように読み解くかがポイントになってくる。なぜなら、書き下し文自体が一つの解釈であるため、書き下し文を日本語に置き換えていく際には様々な言語の知識とこれまでの経験も必要になるからである。そういったことを踏まえて、まずは教科書に出てくる漢詩を例にして、同じ漢詩を訳したものでも原文の解釈や言葉の選び方によって様々な訳がつけられることについて考える。

そのうえで生徒は教師が選んだ漢詩から一つを選び、自分なりの現代語訳を考えていく活動を行う。これには翻訳者が原文に込められた作者の思いや表現の意図を考えながら現代語訳しているという既習事項を応用し、いくつかの訳文を比べたり、漢字の持つ本来の意味について考えをおよぼしたりする必要がある。さらに、それを日本独自のものに変換するために、できる限り日本語のリズムを大切にしながら七五調のリズムや一文で現代語訳を行っていく。現代の感覚や自分自身のこれまでの言語の知識、また仲間や周囲の人の意見を取り入れながら言葉を吟味、検討し自分なりの現代語訳を創り上げる。

1. 単元の目標

(1) 抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

[知識及び技能] (1) エ

○ (2) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) エ

(3) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

(4) 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

【言語活動例 中2】

詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。

C - (2) イ

2. 教材名 『漢詩の風景』（光村図書出版「国語2」）

3. 生徒の実態

生徒は、国語の学習に対して意欲的であり、授業での交流場面や発表の場面でも積極的に発言を行う生徒が多い。国語科で行っている新聞記事を活用した FUZOKU ワークシート、新聞のコラムの視写、帯単元的に行っている漢字学習などにも真面目に取り組んでいる。

本年度の5月に行われた NRT 検査では国語の全領域で全国平均は上回っているものの、読むことの領域を見てみると、「物語文・語の意味」や「物語文・適語補充」の正答率が低く、無回答率も多いなどやや課題が見られた。（表1）

NRT 標準学力検査の結果から(表1) 2024 5月実施

	内容	正答率 学年	正答率 全国
1	話すこと・聞くこと	79.9	62.9
2	書くこと	77.3	62.2
3	読むこと	66.5	50.6

	読むこと領域 集計	正答率 学年	正答率 全国
1	主題や構成を読み取る	75.5	53.7
2	要点をとらえ内容を解釈する	77.6	62.8
3	考えや感想をまとめ伝え合う	65.3	50.3

	読むこと領域 小問集計	正答率 学年	正答率 全国
1	物語文・語の意味	72	56
2	物語文・適語補充	53	36
3	物語文・心情読み取り	80	62

【日常の取り組み】

○「学びのプロセスモデル国語科編」を意識させる

生徒に到達すべき目標を示し、そこに向かうための学習活動を意識させることによって、授業に対しての構えをつくらせることができる。

これまでの授業の中で「気づく→目標を設定する→学習する→自己調整する→深める→振り返る」という小さな学習サイクルを意識させることを行ってきた。これをもとに、生徒自身が目標達成のための学習計画である「学びの計画書」を作成する。また、「振り返り」では学習を通して自分の考えの変容や身に付いた学習方略を言語化して振り返ることができるようにしている。

○必要な時に必要な方法で自己調整を行わせる

学びのプロセスモデルのサイクルに沿って、目標を設定し、生徒自身がどのような方略で目標に向かっていくのかを選び、学習を進めていく。その過程で今の自身の学習に何が 필요한かがわからない時や躓いてしまった時には、立ち止まって考えることが必要になる。その時には、教師や仲間との対話、本やインターネットで調べたことなど必要な時に必要な方法で自己調整ができるようにしていく。生徒自身が課題に向かう力を身に付けていくために試行錯誤することが重要である。

○学びの計画書と Word bank の取り組み

「学びの計画書」はこの単元で身に付けるべき力を生徒自身が認識し、単元目標の達成のためにはどのような学習過程を経てどのような方法で学習を進めていけばいいのかを自身でデザインするための計画書である。これを作成することによって、目標の達成のためには自身の計画でどのようなことが必要なかが明確になる。さらに仲間の計画表や考えを ICT を使い、絶えず交流させることにより、自身が必要な時に必要な自己調整が加えられ、より主体的な学習が可能になると考える。

Word bank とは語彙の獲得、拡充のために附属中国語科で行っている取り組みである。新たに出会った言葉は iPad の Google Workspace のスプレッドシートに記録しておくことにより、語彙の拡充を図り、実生活で使うことができる言葉を得ることができるようにしていく。並行して FUZOKU ワークシートという新聞記事などを題材としたワークシートを国語科で用意し、その中に出てくる知らない言葉などを調べ、Word bank に蓄積していくことも行っている。

4. 指導の内容と言語活動、教材の関わり

(1) 言語活動設定の意図

本単元では、本校の教育目標でもある「創造性」を発揮することによって作品の新たな価値を見出すことを目的に、漢詩の現代語訳を考えるという言語活動を設定した。生徒は、こちらが提示した教科書にはない漢詩から一つを選択し、作品の世界観や言葉の意味などを考えながら現代語訳を行う。授業ではまず、教科書中の「春暁」の現代語訳と井伏鱒二が「厄除け詩集」の中で行っている現代語訳やその他の訳者の翻訳した詩を比較させ、どのような部分に訳者の創造性や工夫が見られるのかを読み取り検討させ、現代語訳の印象の違いを考えさせる。そこから自身が選んだ漢詩を原文のイメージを大切にしながら、日本語のリズムを生かして現代語訳する。その際にはより原文のイメージに近い形で簡潔な言葉で表すために、一文（絶句では四文で訳す）という短い字数で現代語訳するという条件を付ける。また、原文の世界観をよりの確に日本語に置き換えるために井伏が行った七五調での訳など、限られた字数の中でどのような言葉を使って表現するのかを試行錯誤することが本校の目指す言葉の価値の創造につながると考える。もともと漢詩は中国の文化であり現代語訳にもいくつかステップが必要である。現代の言葉との相違や時代による文化の違いや価値観の違いなどを考慮して中学生の言語感覚を大切にしていって取り組んでいく必要がある。生徒には自身が選んだ漢詩をこれまでの経験や学習を生かしながら様々な方略を用いて考えさせ、言葉を吟味検討していく中で原詩のイメージをよりの確に表現した現代語訳を創らせたい。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

交流の必要性を生徒が感じる学習課題、そして活動を意図的に仕組むことで、生徒の主体性や他者との交流の有用性が高まる活動として、以下の活動を設定した。

【 自身の学びのプロセスを言語化する学習活動 】

まずは学習課題を主体的に設定するために、様々な現代語訳などを通じて作品に疑問を持つ視点を大切にしていける。また、今回の目標を達成するために自身の学びをデザインし、目標に向けての学習方略を考える必要がある。今まで自身の学習経験の中で培ってきた様々な方略（手だて）からどの方略を選び、どのように目標達成までのプロセスをたどるのかを考えさせる。さらに、学習の途中でその過程を見直すとともに教師や仲間からアドバイスを受けて自身の学習過程を調整、再考していくことで主体的な読みを実現させる。また、ICT を活用し、常に仲間の考えや学習活動を見ることができるようにする。自己調整が難しい生徒には、これま

での学びを振り返らせることや教師からのアドバイスをもとに、自身の力で最初に読んだ時には気付くことができなかつた漢詩の面白さや奥深さに気付かせ、言葉を主体的に吟味、検討する姿を大切にさせたい。

(3) 意識させたい「言語意識」

【 5つの言語意識 】

- ・相手意識 附属中の生徒に対して
- ・目的意識 訳者になって作品を現代語訳するために
- ・場面意識 漢詩を読み深める場面で
- ・方法意識 現代語訳に適した言葉を吟味することを通して
- ・評価意識 表現の効果を考えて現代語訳することができたか。

(4) 全体研究との関わり

①「生徒が言葉の価値を創造する」学習課題の設定

- ・本校の国語科として捉える「言葉の価値を創造する」とは、言葉により行われる活動の中で「言葉による見方・考え方を働かせる」ことで、既存の考えから脱して新たな言葉の意義や捉え方ができることを認識し、生徒自らが言葉のもつ新たな価値や面白さを追究し、言葉の世界を広げることである。そのために本授業では、生徒がこれまでの課題や強い目的意識から学習課題を設定し、生徒が主体的に言葉を捉えたり、捉えなおしたりすることを大切にしていく。そこで生徒には強い目的意識を持って言葉の価値と向き合い、様々な対話を通して作品中の言葉の使われ方や、広がりを考えさせたい。

②資質・能力を見取る評価の工夫

- ・振り返りシートを活用した形成的評価
振り返りの場面では、自身が作成した学びの計画書を再考させる。この時間の中で到達できたことや、次時に向けて計画の再考は必要か、更なる方略の追加はないかなどを考えさせる。指導者は出されたものに線を引いたり、コメントを残したりしながらフィードバックし、次時や計画表の全体像に目を向けることで生徒が課題を意識できるようにしたい。それにより、生徒が見通しをもったり、授業のつながりを意識したりすることが可能になると考える。

- ・身に付けさせたい資質・能力を可視化するための工夫

自分自身の思考の過程を可視化するためにロイロノート、Google Workspace のスプレッドシート、Fig jam などを使い、同じ観点で課題に向かっている仲間の思考の過程を常に参考にしながら自身の学習に向かえるようにしたい。また思考の過程がわかるようなワークシートを用い、仲間との交流や教師とのやり取りなどの調整の過程も見取れるようにしていく。

③主体的に学習に取り組む態度の評価

- ・本校国語科による「学びのプロセスモデル」を意識させた学びを実現させ、「学びのプロセスモデル」における「方略計画」「方略調整」を言語化し、生徒と共有することを目指したい。「目標設定」「振り返り」「全体の振り返り」については、自己評価や相互評価をバランス良く取り入れながら、総括的評価を行うことができるように見取りを行う。以下に「学びのプロセスモデル国語科編」を示し、プロセスモデルに則って学習を進めていく。

学びのプロセスモデル国語科編

	見通し		学習活動				振り返り
	①目標設定	②方略計画	③遂行	④形成的評価	⑤方略調整	⑥遂行	⑦総括的評価
エンゲージメント	<p>・これまでの学習を振り返り、作品の訳には違ったものがあり、そこには解釈の違いがあることを考える。(認知・行動)</p> <p>・漢詩に現代語訳を付けるということがどのようなことなのかを考える。(感情)</p>	<p>・目標を達成するために自分はどういう観点で作品を読むかを考える。(認知)</p> <p>・どのような手立てを用いて目標に向かって学習を進めるのか「学びの計画書」を作成する。(認知・行動)</p>	<p>・漢詩の基本を知り、「春暁」の詩の解釈の違いについて考える。(認知)</p> <p>・漢詩を読む時は優れた表現や独特のリズムに着目して作品を深く読む。(行動)</p>	<p>・学びの計画書を再考し、自身の課題解決のために必要な方略について考え、作品を読み深めるために次時以降に何が必要かについて考える。(認知)</p>	<p>・自身の「学びの計画書」を見直し、必要な情報や方略は何かを考える。(認知・行動)</p> <p>・より良い現代語訳にするために、今必要なことは何かを考え、必要な調整を加える。(認知・行動)</p>	<p>・自身が選んだ根拠となる考えが妥当なものかどうかを確認し、最終的にできた現代語訳の解説文を考える。(認知・行動)</p>	<p>・仲間の発表や様々な対話、言葉の吟味を通して自身の作品の読みがどのように変容したのかを考える。(認知・行動)</p> <p>・今回学んだことを次の文学的文章の読みにどのように生かすのかを考える。(感情)</p>

5. 指導計画と評価計画（C領域「読むこと」43時間中の5時間）

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ</p>	<p>①「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較させるなどして、表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p>	<p>①漢詩の背景にある事柄や言葉の持つ意味について粘り強く考え、より良い現代語訳のために積極的に言葉を吟味しようとしている。</p>

6. 授業の計画(単元構想表)

	学習活動	評価
事前	○新出漢字，新出音訓，語句の意味については事前学習。	

<p>第一 次</p>	<p>1時 【構造と内容の把握】</p>	<p>○授業で行った文学作品の翻訳について想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訳の違いによって原文の解釈が大きく異なることについて思い出させる。 ・教科書を通読する。 ・漢詩についてもさまざまな解釈ができることを理解する。 <p>○漢詩を現代語訳することについて考える。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き下し文自体が日本語風にアレンジされている。 ・作者の生き方や時代背景がわからない。 ・他の現代語訳や解釈はないのかを知りたい。 ・漢字の語源などから調べたい。 <p>○「春暁」のモデルをあげて現代語訳の違いから受ける印象やなぜ違うのかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春暁」の解釈の違いから生じた訳について考える。 ・井伏鱒二、佐藤一英、土岐善麿などの「春暁」の訳について考える。 ・漢詩を現代語訳することの意味について再度考える。 作品の世界観を日本語のぴったりの言葉に置き換えて表現すること。 ・漢詩を日本語に置き換えることによる言葉の吟味・検討を行う。 	<p>[知識・技能 ①] 初読時に作品上での単語の意味を調べ、語彙を豊かにしている。</p>
<p>第二 次</p>	<p>2時 【題材の設定】</p>	<p>○自身が現代語訳したい漢詩を選ぶ。 教科書には出ていない漢詩を用意する。</p> <p>李白「静夜思」 王維「鹿柴」 杜牧「山行」 李白「峨眉山月歌」 王之涣「登鶴鵲樓(かんじゃくろう)」</p> <p>○学びの計画書を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生の現在までに学んできた学習方略から必要だと思うものを選び、学びの計画書を作成する。 <p>【計画書に生徒が書く学習方略例】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本文(現代語訳済みのもの)を読んで作品について知る ②漢詩の意味について調べる ③現代の言葉との違いについて考える ④漢詩に使われている漢字の語源について考える ⑤司書の先生や教師と話をする ⑥生成AIにキーワードを打ってアドバイスをもらう ⑦インターネットで調べる など 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] 自身の学習方略を見通して、漢詩の解釈に粘り強く取り組んでいる。</p>

	<p>3時 【考えの形成】</p>	<p>○自身が選んだ漢詩を現代語訳する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書作成段階からロイロノートで共有し、情報を得ながら自分の計画書に調整が加えられるようにする。 ・できるだけ多くの資料（違う訳者の作品）を用意する。 ・3時間目の終わりに自身の漢詩の解釈をどのような言葉を使って現代語訳したのか解説文を提出する。 ・中間レポートを共有ロイロノートで提出する。 <p>【この單元における言葉の吟味】</p> <p>言葉の吟味が行われているのかがわかるように自分の分担した漢詩の訳の「解説文」を作成させる。</p>	<p>[思考・判断・表現①]</p> <p>作品の現代語訳を比較させるなど表現の効果について考えている。</p>
<p>第三次</p>	<p>4時本時 【自己調整】</p>	<p>○同じ漢詩を選んだ人が集まって、その漢詩の魅力がよく表れている現代語訳を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Fig jam を使って個人が作成した現代語訳に投票を行い、なぜその現代語訳が優れているのかについて話し合いを行う。 ・その際に自分の作品や、仲間の作品の観点を比較させながら考えさせる。 <p>【観点を挙げて比較させる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 起承転結 ・作者の心情（時代背景なども含む） ・言葉 ・表現技法（対句、韻） <p>○話し合いをうけて必要な調整を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳した文章を読み合い情報を共有する。 ・自分の学習計画や進捗状況を吟味し、今どのようなことが必要かを考え「学びの計画書」に加除修正を行う。 ・仲間や教師など様々な対話によって得た知識をもとに自身の現代語訳をもう一度見直す。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>仲間から得た情報や様々な交流から自身の学習に調整を加えようとしている。</p>
	<p>5時 【考えの形成・まとめ】</p>	<p>○自分の「解説文」を見直し、仲間の「解説文」を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ漢詩でも解釈が多様であることに気付く。 ・学習班で仲間の作品を読み合い感想を伝え合う。 ・漢詩の現代語訳から学んだことについて考える。 ・単元のまとめを行う。 	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p>文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。</p>

7 本時の展開

- (1) 日時 令和6年月11月30日(土) 9:45~10:35
 (2) 場所 山梨大学教育学部附属中学校 図書室
 (3) 目標 漢詩の解釈を比較し、自身の漢詩をもう一度見直そう。

(全5時間の4時間目)

	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ	1 前時までの内容と本時の目標について確認する。(5)	・本時の目標を確認する。	
深める	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> ◎漢詩の解釈を比較し、自身の現代語訳をもう一度見直そう。 </div> 2 同じ漢詩を選んだ人同士で現代語訳を読み合い、一番優れていると思う現代語訳を選ぶ。(10) ・ Fig jam を使って投票を行う。 ・ コメントをし合う。 3 一番投票数が多かった漢詩の現代語訳についてなぜその現代語訳が優れているのかについて話し合いを行う。(15) ・ その際に自分の作品や、仲間の作品の観点を比較させながら考えさせる。 【比較するときの観点】 ・ 構成 起承転結 ・ 作者の心情(時代背景なども含む) ・ 言葉 ・ 表現 など 4 自分の現代語訳をもう一度考え直し、調整を加える。(15) ・ 必要に応じて自身の「学びの計画書」を再考する。	・ 生徒が現代語訳を選ぶ際に、原文に最もふさわしい現代語訳であるかを考えさせる。 ・ 「選考基準」を全体で共有する。 ・ Fig jam 画面の共有を行い、他の人やグループの交流の様子を全員に共有できるようにする ・ 教師も必要なアドバイスができるように各場所を巡回指導する。 ・ 仲間の発表を聞いて自分の観点等と関わる部分がないかを考えさせる。	[思考・判断・表現①] 作品の現代語訳を比較させるなど表現の効果について考えている。 [主体的に学習に取り組む態度①] 仲間から得た情報や様々な交流から自身の現代語訳を再度、吟味しようとしている。
考える	5 本時の振り返りを行い、次時への課題を明確にする。(5)	・本時を振り返り、次時までに何が必要か考える。	

①「静夜思（せいやし）」 李白

【白文 訓読】

牀前看月光
疑是地上霜
挙頭望山月
低頭思故郷

【書き下し文】

牀前（しょうぜん） 月光（げっこう）を看る
疑（うたが）うらくは是（これ） 地上の霜かと
首を挙（あ）げて 山月を望み
首を低（た）れて 故郷を思う

②「鹿柴（ろくさい）」 王維（おうい）

【白文 訓読】

空山不見人
但聞人語響
返景入深林
復照青苔上

【書き下し文】

空山（くうざん）人を見ず
但（ただ）人語（じんご）の響きを聞くのみ
返景（へんけい）深林に入り
復た（また）照らす青苔（せいたい）の上

③「山行（さんこう）」 杜牧（とぼく）

【白文 訓読】

遠上寒山石径斜
白雲生処有人家
停車坐愛楓林晚
霜葉紅于二月花

【書き下し文】

遠く寒山に上れば 石径（せっけい）斜（ななめ）なり
白雲（はくうん）生ずる処（ところ） 人家有り
車を停めて坐（そぞろ）に愛す 楓林（ふうりん）の晩（くれ）
霜葉（そうよう）は二月の花よりも紅（くれない）なり

④「峨眉山月歌（がびさんげつのうた）」 李白

【白文 訓読】

峨眉山月半輪秋
影入平羌江水流
夜発清溪向三峡
思君不見下渝州

【書き下し文】

峨眉山月（がびさんげつ） 半輪（はんりん）の秋
影は 平羌江（へいきょうこう）の水に入りて流る
夜 清溪（せいけい）を発して 三峡に向かう
君を思えど見えず 渝州（ゆしゅう）に下る

⑤「登鶴鵲樓（かんじゃくろうにのぼる）」

王之渙（おうしかん）

【白文 訓読】

白日依山尽
黄河入海流
欲窮千里目
更上一层楼

【書き下し文】

白日（はくじつ） 山に依（よ）って尽（つ）き
黄河（こうが） 海に入（い）りて流る
千里（せんり）の目を 窮（きわ）めんと欲して
更に上（のぼ）る 一層の楼（ろう）